

# 大念佛

No.53

発行／融通念佛宗総本山  
大念佛寺  
大阪市平野区平野上町1-7-26  
TEL.06-6791-0026

# 迎春



融通念佛宗管長  
総本山大念佛寺第六十六世法主

倍 巖 良 舜

平成二十一（己丑）年の新春を迎えおめでとうございます。一年の計は元旦にありと申します。よき一步をあゆみ出されることを祈っております。

昨年は政治、経済の混乱、食品の産地偽装、不正使用、凶悪犯罪増加等、大変憂慮すべきことが多

かったと思います。日本全体のモラルが低下してしまつたので、「悪」の質も深刻化しております。時々車で通る道ですが、国道二十四号線の奈良市と大和郡山市の境目ぐらゐに国道横田という所があり、北進すると信号があります。赤信号で停つて右側を見ると、灌

木の「植込み」が道にそつて延びております。その中に「カン」や「ビン」その他の「ゴミ」が無数に投げこまれているのです。信号待ちの車から捨てたものです。少しくらいの数ならどこの国でも不心得者は必ずおるもんだと思うのですが、ここに投げこまれた「カン」や「ビン」「ゴミ」を見ると、そのおそろしい数に腹立ちよりも慄然たるものを覚えるのです。日本がどうしてこんなにもラルの低い国になつたんだろうという悲し

さと心配がこみあげてまいります。これはほんの一例に過ぎません。若い人の精神面の貧しさ、その親の世代も挫折感、虚脱感を抱いている人が多い。かつて南都薬師寺の元管長 高田好胤和上が「物で榮えて、心で亡ぶ」といわれた予言があまりにも敵中しているので今改めて驚いている次第です。

このような今日の世相の淵源は明治の文明開化政策までさかのぼります。富国強兵と科学万能を推進した為です。それでもまだ明治には道徳教育がありました。それが昭和二十年の太平洋戦争敗戦によりすべて吹っ飛んで、何でも自由という享乐的、利己的風潮が蔓延して今の混迷時代に入つてしま

**初詣**  
大晦日除夜鐘つき法要  
年末年始は本山へ  
融通念佛宗  
総本山 大念佛寺



これを正すにはかなり時間がかかると思います。「手や足のよごれは常に洗えども心のあかを洗う人なし」、心のあかは教育によつてゆつくりと洗うより仕方ありません。精神的荒廃より立ち直らせるには宗教的教育が必要になるのです。教育に魂を与え、生命を与えるものが宗教にはあります。何も特定の宗教をさすのではなく普遍的な宗教性が大事なのです。今、自分が存在し得るのは天地自然を始め、大勢の人々のおかげであるということを認識させる。それが宗教性というものです。今年「己丑」の年です。大地にしっかりと足をつけ、牛のよう



# よみがえった輪奐の美 霊明殿改修工事完了

大念佛寺境内の西北に位置して霊明殿があります。霊明とは不思議な力を備えて、明るくもりのないことをいいます。ここは最初、鳥羽上皇をお祀りするために建てられたもので、上皇を尊敬して霊明殿といいます。

近年、老朽化が著しく、修復を望む声が多く寄せられていました。今回、その機運が熟し、平成二十年一月十日に着工し、九月末日をもって完了しました。ご来寺の折には新しい霊明殿へも是非ご参拝ください。



霊明殿

霊明殿は正門（唐門）、回廊、修法堂、奉安所から成っていますが、そのうち正門と回廊の破損が目立ち、特に基礎が沈下しておりました。工事では、挽き家の方法で門を移動し、堅固な基礎を施してから元に戻し、扉、彫刻、柱等の補修を行い、瓦を新調し屋根を葺き替え



霊明殿 本殿

ました。回廊も基礎を補強し、腰板のゆがみを直し、腐食部分を取り替え、屋根は門と同じく葺き替えました。木材部分の補強はすべて古色仕上げにし、全体の調和を保ちました。また瓦の文様は十六菊と三葉葵の二種を使用しました。

霊明殿の創建は保元元年（一一五六）年、第三世明應上人のときと伝えられています。

宗祖良忍上人の念仏勸進を助け、自らも深く融通念仏に帰依された鳥羽上皇に、報恩感謝をささげるために建てられました。その後、寛永年中（一六二四～一六四三）第三十八世法覚上人は徳川家康公を合祀するため権現造りの社殿を再建しました。それ以後「こを」権現さま「お宮」と称し遠近からの参拝者で賑わいました。家康公は大坂冬の陣、慶長十九（一六一四）年、夏の陣、元和元（一六一五）年において、第三十六世道和人に帰依し、治国の要を教わり、国家安穩の祈禱を乞い、日課念仏を

誓約しました。さらに二度の戦役で被災した大念佛寺に礼を尽くし、天台僧正立ち合いのもと、青銅五百貫文を弁済し、庫裏を再建し、御回在念仏勸進の許可を与えるなど、融通念仏の弘通に貢献されました。

霊明殿は今日まで何度か修理を繰り返し、正門と回廊は江戸時代の遺構を残していますが、奉安所（神社の本殿に相当するもの）と修法堂（神社の幣殿と拝殿に相当するもの）は明治二十五年頃火災で焼失し、その後、第四十三世舜空上人の末裔、北花田澤池正信氏とその縁戚、柄谷善弘氏の奇進により、昭和五年に旧形を踏襲して建て替えられました。この二棟はまだしっかりしており、今回の修復工事においても、修法堂の濡れ縁と部戸、障子、畳などを新しいものに取り替えただけで済みました。



なお今回の大改修を機に、新たに後小松天皇の天牌（天皇のご霊牌）もお祀りさせていただきました。後小松天皇は南北朝時代、嘉慶三（一三八九）年、融通念仏勸進帳に序文をしたため、第十四世道音上人に下賜し、大いに融通念仏の功德を称揚するとともに、広くこの教えを世に弘められた大恩人です。この勸進帳は国の重要文化財に指定され、大念佛寺の家宝として今に伝わっています。

東照大権現忌 五月二十二日  
鳥羽上皇忌 七月二十日  
後小松天皇忌 十二月一日

## 納骨のご案内

まず納骨の意義についてご説明しますと、仏教では亡き人の遺骨を崇めまつる習慣が古くからありました。

紀元前五世紀の頃、お釈迦さまが八十歳で亡くなられると、多くの弟子たちは悲嘆の中にも、偉大なる師に対する赤子の情たちがたくその遺骨を各地に配分し、丁重におまつりし、生かませるお釈迦さまに對するようになつた所に塔を建て、遠くからでも拝めるようにしました。



衆邦殿（納骨堂）

日本では古くから土葬が主流でしたが、それでも遺髪や装身具等を山岳霊場に納める風習が行われてきました。八世紀初頭より火葬が行われるようになると、遺骨の一部（咽ぼとけ等）をお寺に納め、ご本尊のお膝もとで永遠に安らぎを得ていただきたいとの切なる思いが納骨供養となつて定着しました。こうしたことからお寺に納骨するという風習は特に関西方面では今なお続けられています。



回向受付所 瑞祥閣（本堂西側建物）

融通念仏宗の檀信徒の皆さんもほとんどが納骨をされ亡き人の菩提を弔っておられると思いますが、



衆邦殿 菩薩を安置

今までは他宗であるが近くにありお寺や、納骨で有名なお寺に納骨をされていた方も、本宗の檀信徒たるものは、先ずは菩提寺に納骨堂や納骨する設備があればその菩提寺に納骨されるのが本筋であります。もし菩提寺に納骨設備がなければ総本山大念佛寺に納骨される事を是非お勧めいたします。

胎内仏納骨とは納骨いただきましたご霊骨をまず小さな小仏の体内に納め、後日胎内仏開眼法要（十一月三日）に於いて万部でおなじみの菩薩さまが、この小仏をお導きいただき大きな菩薩像（胎内仏）の胎内にお納めする納骨で、衆邦殿（納骨堂）にこの菩薩像を安置し永代おまつりいたします。またどの菩薩像（胎内仏）に入っておられるか分かる方法です。



本堂納骨風景



納骨祭壇

詳しくは、  
大念佛寺ホームページ  
<http://www.daienbutsuji.com/>  
本山納骨係  
電話〇六六七九一・〇〇二六  
までお問い合わせ下さい。



# “来迎院の獅子”の夢

## 良忍上人

### “京都市大原来迎院建立九〇〇年”の年を迎えて

#### ○来迎院の建立された京都洛北

【大原】京都市内から北へ約十五km。山里、京都大原は声明と念仏のふるさとと呼ばれています。

さて、大原は、日本天台宗を開宗した伝教大師最澄の直弟子である慈覚大師円仁が声明の修練道場として開山したと寺伝に伝えられています。はじめはこの地に修行道場を創設されたのは寂源というお坊さんでした。叡山(延暦寺)の一番北奥の横川からさらに北へ峠と谷を越えた幽谷の大原に、およそ一〇〇〇年前の長和二(一〇



来迎院 本堂(冬)

はご自分の念仏行と法華経修行に加え、大原流・叡山流すべての声明研鑽のため来迎院を建立して声明興隆に尽力されました。それがちょうど九〇〇年前の一〇九九年だったの

一三)年、阿弥陀仏を念じる念仏道場(阿弥陀堂) 勝林院が建てられ、六時行道という阿弥陀信仰の行と大原流の声明道が興されました。そしておよそその一〇〇年後、

良忍上人が大原来迎院を建立される天仁二(一一〇九)年のころには、お堂がいくつも建てられ、聖が集まり修行が営まれます。

#### ○良忍上人と来迎院

良忍上人は嘉保元(一〇九四)年、二十三歳で念仏修行を修すため、叡山を下りて大原に入られますが、そこにはすでにさまざまに修行や勉強に励む先輩聖たちがおられま

した。良忍上人はそんな先達に、とりわけ声明研鑽の面で積極的に関わりを持たれたようです。勝林院の永縁には大原の声明を授けてもらい、逆に叡山の声明は永縁に授けるなど教え教えられる関係を持つことが出来てい

#### ○良忍上人の声明に伝えられるもうひとつの伝説

大原で修行を共にする聖仲間、さらには後々大原に集う人々の尊敬の念や憧れを辿り集めて、生前良忍上人が唱えられた声明に因む『伝説』が大原の地にふたつ残されています。

ひとつはよく知られている「音無しの滝の伝説」。実はもうひとつあります。それは上人の唱える声明の調べがあまりにも美しく、大原に生息する獅子(鹿)が陶醉して堂内を駆け巡り、定めて不動の岩になってしまったという「獅子飛び石の伝説」です。来迎院の

#### の年を迎えて

です。以後大原では来迎院(上院 流・本願)と勝林院(下院流・本家)の二院が道場とされ、声明の研鑽が盛んになっていきます。

やがて良忍上人は叡山時代に修した声明に加え、新たに大原で習得した秘曲も含めすべての声明曲を習得大成されます。大原においては新参ではありませんが、天性の美声、絶大な見識となによりも良忍上人のお人柄に人望厚かった

のでしよう、『魚山声明相承血脉譜』にもあるように揺ぎ無い信頼を得て天台声明中興の祖・本願上人として認められ、仰がれ尊敬されておられたことが窺えます。



音無の滝

本堂が望める境内の高台にその獅子岩はしっかりと鎮座しています。岩に姿を変えてなお九〇〇年を経た今日も、上人の声明に耳を傾けながら上人の夢をみているように思えます。



#### ○来迎院境内に眠る獅子の夢

獅子の夢は、同時に私も宗徒の夢に通じているのかもしれませんが、良忍上人の大成された声明が永く継承され、また発展していつかほしい……。

願いのとおり、声明は脈々と後世に引き継がれ、魚山流声明として、天台宗を母体とする宗派はもとより、奈良仏教や真言宗の声明にまで影響を及ぼし重要な儀式音楽として現代に生きています。またさらに、良忍上人ご本人も、ましてや獅子も予想していたでしようか、声明をひとつの源流として、現代に誇りうる日本の伝統芸能「能楽(能と狂言)」「文楽」「歌舞伎」(ともに世界無形文化遺産)を生み出

#### しい夢といえるでしょう。

#### ○大切なもうひとつの獅子の夢

もうひとつの夢は、御文「一人一切人 一切人一人、一行一切行 一切行一行、十界一念 融通念仏 億百万遍 功德圓滿」の教えの弘通です。

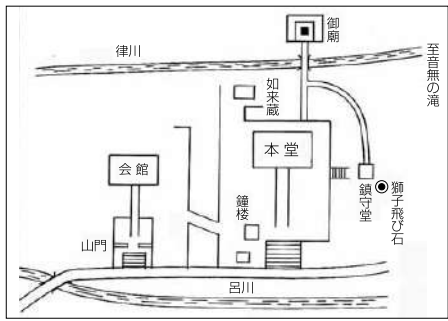
良忍上人は、人と人との融和を念仏の声に託して実現させるべく、融通念仏の教えをうち立てられました。御文の「一人一切人 一切人一人」は、「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」という倫理道德の内容を説いて頂いており、私たちにとても優しくわかりやすい大切な教えです。しかし、この「一即一切、一切即一」の相即の教えは、倫理道德の規範を超え、その奥にもう少し深く重要な根本真理(教え)を含め持っているのです。

現代社会の「殺害」や「自殺」に見られる外へ内へのひとりよがり成り行き任せの暴力など深刻な状況を目の当りにして、今改めてこの矛盾の相即の教えを思い起こすべき時が来ていると思われてなりません。「自分と異なる相手そのまますべての中に認める価値」(肯定と否定の内存在)、「死を迎え入れながら精一杯生きることの価値」(生と死の内存在)など、相矛盾するものが異なりながら内在

する矛盾の相即の現実、生きて生けるものの本質であり、自然の摂理・宇宙の真理であることを説いています。良忍上人のこの御文の深い教えを了解し帰依の大道につくことこそが大事で、そしてその成就の確かな道は自然の摂理・宇宙の真理の前に素直で随順な日々の「南無阿弥陀仏」の念仏行にある、と説いてくださっています。

近年に至って来迎院の獅子はひとつ目の夢には更に希望を膨らませながらも、ふたつ目の夢については十分な社会状況にはないのでとても気がかりで心配しているのではないかと思います。

記念すべき年の初めにあたりまして、あらためて獅子の夢に思いを巡らし、声明の充実と良忍上人の御文の更なる弘通の願いを「獅子“本願の夢”」としてとらえまして、皆さまとともに獅子の夢が正夢になることを願ひ、新しい年の歩みに臨みたいと思ひます。(融通声明研究会所属 吉井良久)



来迎院の境内図





### 末寺巡礼 鶴見・東大阪の寺々

大東良清

#### 道音寺

大阪市鶴見区放出東一・二五・一九  
松澄山 道音寺と号するこの寺は、  
文和三（一二三四）年、道音上人  
の開創。

道音上人は放出村出身で十五才  
のとき中祖法明上人の弟子となった。  
勉学に励み広く信頼をあつめて大  
念佛寺第十四世となり、嘉慶三（一  
三八七）年、後小松天皇から直筆  
の念仏勧進帳を賜わった。

しかし二世道徒上人の後、約百  
八十年の間住職はなく、荒廢。天  
正二（一五七四）年に道水上人が  
三世となって再興した。明和五（一  
七六八）年、隣家より延焼消失し  
たが、十世智潭上人が再建。

現本堂は昭和三十六（一九六  
一）年に鉄筋コンクリートで新築。  
本堂正面の御本尊は阿彌陀三尊像。  
また、内陣東側には道音上人座像  
とその周りに三十三観音がまつら  
れている。



道音寺

#### 源正寺

大阪市鶴見区今津南四九・三三  
寿永山 源正寺と号するこの寺は、  
大阪市鶴見区は今津にある寺院で、  
寿永三（一一八四）年に源正上人  
によって開基される。一時は他宗  
派に属した時代もあったが現在に

至る。御本尊は鎌倉時代より伝わ  
るとされている阿彌陀三尊像。境  
内にある観音堂には白衣観音が安  
置されている。また、源正寺は明  
治時代の本宗特立の際に活躍され  
た本山第五十六世法主 法常光院  
殿清涼得善大僧正の剃髮所でもある。  
その他、俳人舎笠の句碑もある。  
現在の山門・本堂・庫裏は平成八  
年に再建された。



源正寺

#### 大通寺

東大阪市西堤楠町三二五・一八  
圓融山 大通寺と号するこの寺は、  
もとは西堤神社の北側にあった。

西堤村の庄屋であった石津久左  
衛門が、平野の本山大念仏寺に帰  
依し、西堤の地に道場を設けて近  
隣の村々の布教に努め、延宝五（一  
六七七）年に寺号御改により、圓  
融山大通寺と名を改めたといわれ  
ている。寺には、寺宝として「内  
助淵大蛇退治の古図」が残されて  
いて、村の北方に存在した内助淵



大通寺

#### 専念寺

東大阪市加納一五

専念寺と号するこの寺は、阿彌  
陀如来（木像）を本尊とし、境内  
に門、本堂、庫裏がある。延宝五  
（一六七七）年の記録によれば、  
開基は不明で、代々看坊とある。  
什物として、西国三十三番の観音  
掛軸、引導仏、十一尊仏、大数珠  
のこつている。現在は若江長寿  
寺の住職が兼務している。



専念寺

#### 常福寺

東大阪市柏田本町八・一五

宝珠山 常福寺と号するこの寺は、  
今から約三〇〇年前の元禄十三（一  
七〇〇）年に圓山上人の開基によ  
り現在に至っている。中興の祖・  
法明上人の廟所（東大阪市・有馬  
御廟）を造成中、柏田の里人が宝  
珠を掘り当て阿彌陀仏像の胎内に  
宝珠を納め「福德增長」を祈願した  
そのいわれによりこの寺は「宝珠  
山常福寺」と号する事になった。  
二月の節分会護摩法要「星まつり」  
は、宗派を越え柏田の町の行事と  
なつて親しまれている。



常福寺

**開宗900年記念法要**  
**再興大通上人300回御遠忌法要**  
平成27年5月1日～5月7日

インターネットで大念佛寺の情報をご覧下さい。

<http://www.dainenbutsuji.com/>

## 大念佛寺年中行事と案内（一月～七月）

### 修正会

一月一日 午前五時  
国家安泰・五穀豊穰・万民豊樂  
を祈願して法要が修されます。

### 融通念仏会

一月十六日 午前十一時  
ご一緒にお念仏を称えましょう。

### 百万遍会

一月十六日 午後二時  
外陣いっぱい張りめぐらされ  
た数珠を、お念仏の声もろとも  
に練ります。管長祝下から身体  
堅固のお加持が受けられます。

### 寒行

二月三日（節分） 午前八時  
本山僧侶が平野の町を鉦を打ち  
鳴らしながら托鉢します。

・毘沙門天護摩供 午前十時  
・大般若転読 午後一時

### 元祖聖心大師御忌法要

二月二十六日 午後二時

### 河内御回在御出光

三月二日 午前八時

### 納骨諸遺善法要

二月二十七日・三月五日 午後一時

### 再興大通上人御忌法要

三月五日 午後一時

### 春季彼岸会

三月二十日

### 写経奉納供養・筆供養

三月三十一日 午後一時

### 万部法要

五月一日～五日 午後一時  
阿彌陀經一万部が読誦され、本  
堂の外側に橋を組んで、雅樂演

奏のうちに菩薩さまがお練りを  
される儀式です。

### 融通念仏会

五月十六日 午前十一時

### 百万遍会

五月十六日 午後一時

### 東照大権現忌

五月二十二日

### 河内御回在御帰院

五月二十九日 午後三時頃

### 中祖法明上人御忌法要

七月七日 午後一時

### 定例布教

毎月二十六日 午後一時三十分

### 瓦勸進のご案内

一口千円で受け付けています。

### 写経のご案内

毎月二十六日、午前十時より午  
後三時まで、白雲閣にて写経（一  
巻千円）を行なっております。

### 納骨のご案内

本堂に於いて、午前九時三十分  
より午後四時まで年中無休で納  
骨を受け付けています。

宗派は問いません。

お問い合わせ

☎〇六・六七九一・〇〇二六

**謹賀新年**

融通念佛宗本山 大念佛寺

法主	倍巖	良舜
管長	吉村	暉英
宗務総長	中江	慈光
教学部長	岡田	眞澄
庶務部長	眞澄	
財務部長	北川	全宏

**話せば心も軽くなる** 大阪仏教テレビホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

月曜日：浄土宗・融通念佛宗 火曜日：浄土真宗本願寺派・真宗大谷派  
水曜日：天台宗・真言宗 木曜日：臨済宗・曹洞宗・黄檗宗 金曜日：日蓮宗  
（月曜日～金曜日）一月十四日～十二月二十四日（八月休）

でんわ 〇六（六二四五）五一一〇 午後二時～五時迄